

令和7年（2025年）度行政評価シート

令和 7 年 6 月 4 日

評価者	共生共創部長 能條裕子
-----	-------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	1-(3) 多文化共生社会	施策の方針	1-(3)-①多文化共生社会の推進
目標とするまちの姿	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力し合うことで、共生社会への取組が進んでいます。また、様々な国籍・文化の人々が安心して快適に生活できる環境が整備されています。			
主な取組	(1)国際理解・交流・協力活動への支援・促進 市民・市民団体と連携しながら講座やイベントを開催するとともに、学校教育の場での国際理解教育を通じて、市民の国際理解の促進を図ります。 (2)外国籍市民が暮らしやすい環境の整備 外国籍市民への行政情報の提供や、学校教育の場での対応の充実に努めます。			

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

- ①引き続き、都市間の連携の強化や交流を推進し、国際交流・都市提携の機運を高める。
 ②引き続き、国際交流の啓発事業を実施するほか、市民通訳ボランティア制度の周知啓発に努め、活用を促進し、多文化共生社会実現を着実に推進する。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	188	5,009	380	1,486	7,782	
人件費	16,450	11,424	4,688	8,500	8,816	
総事業費	16,638	16,433	5,068	9,986	16,598	0

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	共生-21	国際交流推進事業		1,667	4,883	6,550	現状維持	A	現状維持
	共生-22	都市提携事業		6,115	3,933	10,048	現状維持	A	現状維持

4. 評価対象年度の主な実施内容

①②令和6年10月に安東で開催された国際会議「21世紀人文価値フォーラム」に市長が出席、また市民青年団19名を組織し、同会議に出席したほか、国立安東大学生と交流等を行った。
令和7年1月に、鎌倉商工会議所で国際交流の実践事例の紹介として「鎌倉市青年韓国・安東市訪問事業報告会」及び鎌倉安東友好交流会会長による講演を含む国際交流講座を実施した。
市内を中心に活動する鎌倉市国際交流・協力団体連絡会加盟団体等で構成される実行委員会と市の共催で、鎌倉大仏殿高德院にて「かまくら国際交流フェスティバル2024」を開催した。
日米野球交流150周年をきっかけに実施された「日米野球外交プロジェクト」の一環で、アメリカ・ウィリアムズバーグ市の学童野球選抜チームが鎌倉を訪問し、表敬訪問、交流試合及び文化交流等を行った。
姉妹都市等と、相互訪問、歓迎、スタンプラリーの共同実施などを積極的に実施し、各都市との交流を深めた。
②市民通訳ボランティアについて、外国籍市民や事業者からの求めに応じて、合計2回（中国語1回、英語1回）の派遣を行った。

※実施できなかった事業とその理由

5. 成果指標

成果指標①		国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力しあえるまちになっていると感じている市民の割合					出典	市民アンケート調査		
	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	59.8	目標値	60.0	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	%	
		実績値	未実施	67.3	67.1	64.7	67.6			
		達成率	—	110.3%	108.2%	102.7%	105.6%		%	

成果指標②		外国籍市民が住みやすいと感じている市民の割合					出典	市民アンケート調査		
	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	49.6	目標値	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0	%	
		実績値	未実施	61.5	59.2	59.8	62.8			
		達成率	—	120.6%	113.8%	112.8%	116.3%		%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

①②国際交流フェスティバルを開催し、国際交流や国際協力を行う市民団体が、個別ブースの開設や舞台での発表を行うことによる活動の活性化促進に寄与した。また、国際交流フェスティバルは、多くの市民等が楽しんで参加できるイベントであることから、国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力しあえるまちの実現に寄与している。
①②パートナーシティの韓国・安東市への訪問事業の参加者を公募により募集し、青年団を派遣し、現地の大学生と活動することで草の根の交流が図られたほか、多世代の市民を対象に報告会を実施したことで、地域の国際化の推進に寄与し、多文化共生社会への理解に繋がったと考えられることから、指標の目標値の達成に大きく貢献したと捉えている。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

・関連団体等と協力しつつ、国際交流・国際協力への理解を深める取組を行ったほか、姉妹都市等との良好な自治体間交流を継続して実施したことにより、成果指標を達成した。国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力しあえるまちの実現に寄与しており、施策の方針の達成に十分貢献していると評価した。

8. 今後の方向性

・引き続き、国際交流・国際協力への理解を深められるように、事業の実施に継続的に取り組むとともに、市民通訳ボランティアの協力等により、市民同士が支え合う開かれた地域づくりを促進させ、国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力し合い、外国籍市民が住みやすいと感じられるまちづくりを推進する。

・各種制度やイベント等の周知啓発において、引き続き市HPや、SNS、各施設や学校等へのチラシ配架等、多くの市民の目に留まるよう工夫して実施していく。

9. 今年度(評価年度)の目標

①引き続き、都市間の連携の強化や交流を推進し、国際交流・都市提携の機運を高める。

②引き続き、国際交流の啓発事業を実施するほか、市民通訳ボランティア制度の周知啓発に努め、活用を促進し、多文化共生社会実現を着実に推進する。